

夫婦で子育て

東京都立大学教授・心理学
託摩武俊

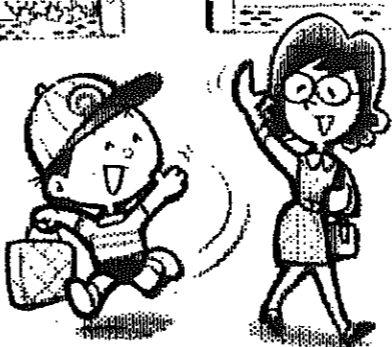
「男は外で働き、女は家を守る」というのが我が国の伝統的な考え方でした。戦前は女性で仕事を

母親が外で仕事を持つ家庭

一般的だったのです。現在は事情がすっかり変わりました。大学や短大を卒業した若い女性の、ほとんどすべてが就職をします。結婚まで、出産まで、という人もいますが、そのままずっと仕事を続ける人もいます。仕事の

所でも女性がたくさん活躍するようにになりました。現在では、子どもを持つている婦人の半分以上は、家庭の外で仕事をしています。フルタイムもあれば、パートタイムもあります。仕事の内容もさまざまです。母親が就労している家庭の子どもは、いわゆる専業主婦の家庭の子どもと比べて、お母さんは疲れている、自分と

不機嫌を生み、子どもにも厳しい言葉で接することになり、家庭の空気全体が荒れたものになりがちです。社会参加の喜びや、自己実現の喜び、収入の増大などが得られても、家庭内がしっくりいかなくなるのは、好ましいことではありません。夫の「理解」だけではない積極的な協力が重要です。具体的には、家事を分担するようにして、子どもにできることは子どもにやってもらうのです。食事を作ること、後片づけをすること、買い物、掃除、よその家との付き合いなど、夫や子どもができることはたくさんあります。母親が仕事を持つためには、家庭全体の支持が必要なのです。



家庭看護法

赤日 老いを看護する

No. 8 食事について

日本赤十字社新潟県支部
佐々木成子

食えることは、生きていくことの中でいちばん必要なことです。しかし、病気になるったり、気持ちが落ち込んだりしたときは、食欲が低下して、食べられないことがあります。また、寝たきりになって、いつも食べさせてもらったり、下の世話を受けていたりすると、つい介護者に気がねし、「もう、たくさん」とか、食べれば出るから食べないようにしようとか決めて、じゅうぶんに食べないことがあります。こんなことが長く続けば体が衰弱し、病気が治りにくくなります。生きていく上で、食事は楽しみの一つでもあります。おいしく食べられるような工夫をしたいものです。

お年寄りは食事の際に、むせたり、つかえたりする傾向があります。特にまひがあったり、寝たままの姿勢のときにそうなりやすいので、食事のときはなるべく体を起こしてあげましょう。のどの通りが良いように柔らかく煮たり、汁物にはとろみを付けたたりすることもたいせつです。また、お年寄りは水分が不足しがちになります。一日に千〜千五百ミリリットルくらいの水気を忘れないでください。食べ方がごちなかつたり、時間がかかったりすると、つい食べさせてあげたくなくなります。しかし食事はこぼしながらでも、自分で好きなように食べたほうがおいしいものです。おにぎりやサンドイッチにする、皿の位置に気を付けたり、使いやすい食器にする、病人の体の安定を図るなど、なるべく一人で食べられるように配慮したいものです。 * * * * * (訂正とおわび) 老いを看護するNo.1(昨年七月一日号八ページ)で、「新潟県はいまや全国平均の十年先を行く」としましたが、「七年先」の誤りでした。訂正しておわびします。

つらかった戦地でのささやかな楽しみ

私の思い出

あの時の場所

語る人
美濃川一男さん
(清水・六十四歳)



戦地(中国)での思い出

昭和十九年、現役で鏡部隊の百十六連隊要員として、中国大陸に渡った。当時追及する本隊は桂林より奥地、独山で戦闘中であつた。私たち初年兵は、教育を受けてから本隊に追及するため、感寧の善部隊に預けられた。善部隊の居候的存在なので、給与は非常に悪かつた。当然食糧事情も悪く、上官から「武士は食わねど高楊枝、卑しいまねはするな」と注意を受けたが、空腹はどうしようもなく、演習に行つて、こっそり畑からサツマ芋を掘つて持ち帰つた苦しい思い出もある。教育は非常につらかつたが、楽しいこともささやかならあつた。日曜になると相撲大会や演芸大会、体育競技などの行事があり、士気を高めてくれた。この写真は、中隊の演芸大会で優勝した時のもので、当時二十一歳であつた。私が経験したような悲惨な戦争は、子どもたちに決して経験させてはならない。そう肝に銘じながら、今一度中国に行つてみたいと思つている。



新潟県のアザレア生産量が、全国第一位ということを知っていますか。また、白根、新津、小須戸の生産量が、そのまま県の生産量ということですから、またまた驚いてしまいます。アザレアは、製品として出荷されるまで約一年半かかります。作業は四月のさし木に始まり、七月ころへぎに移し育成。翌春鉢上げし、早出し(年内出荷)するものは、七月から八月にかけて約二十日間冷蔵庫に入れます。この時の温度は約五度から六度。その後ハウスで栽培され、出荷が初まるのは九月からで、翌年五月初旬ころまで続きます。冷蔵庫を使うのは、人工的に冬を経験させ、開花を早めさせるため。また、冬期間は凍結防止と開花促進のため、暖房を入れます。人間の赤ちゃんより、もっと大事に育てられるようですね。本来アザレアは、春に咲くものですが、今では冬の花木として、すっかり定着しています。

生産者の声



星一夫さん
(下八枚・34歳)

例年五月の連休ころまで出荷しているのですが、今年は超暖冬のため、三月末ころには出荷が終わってしまいそうです。暖房費や施設管理の面では、毎年こんな暖冬が続いてくれたらいいのに、と思つたりもします。